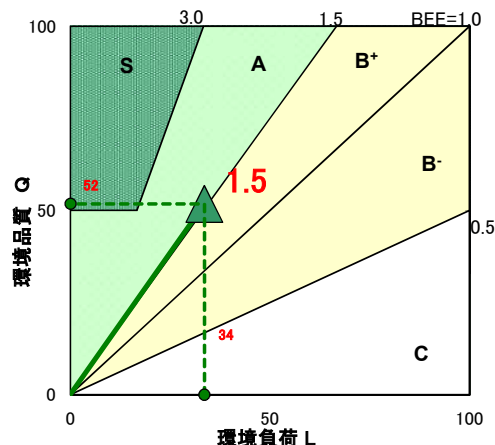


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	千原台高等学校校舎改築工事	階数	地上6F	
建設地	熊本市島崎2丁目540番地その他	構造	RC造	
用途地域	都市計画区域内 市街化区域、防火	平均居住人員	653 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	2,500 時間/年	
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2014年1月 予定	評価の実施日	2012年3月20日	
敷地面積	33,354 m ²	作成者	北 一陽	
建築面積	1,401 m ²	確認日	2012年3月21日	
延床面積	5,772 m ²	確認者	吉永 拓郎	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.5

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

84%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

89

評価点

■熊本県重点評価基準

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

93.1

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

83.7

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

87.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

87.0

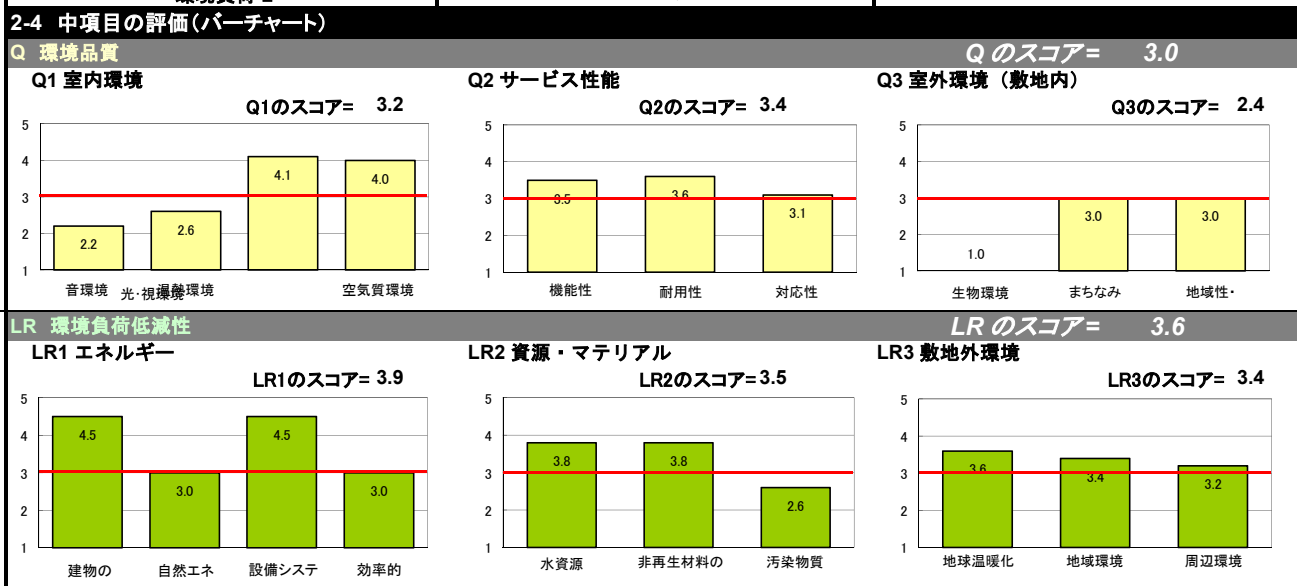
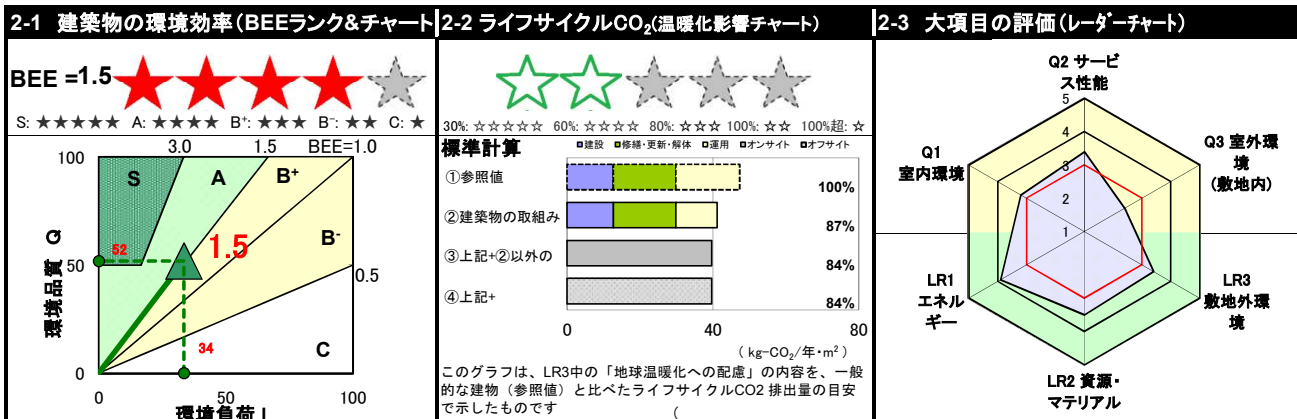
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	千原台高等学校校舎改築工事	階数	地上6F
建設地	熊本市島崎2丁目540番地その他	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内 市街化区域、防	平均居住人員	653 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,500 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年1月 予定	評価の実施日	2012年3月20日
敷地面積	33,354 m ²	作成者	北 一陽
建築面積	1,401 m ²	確認日	2012年3月21日
延床面積	5,772 m ²	確認者	吉永 拓郎



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
千原台高等学校校舎改築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境			0.40			3.2
1 音環境		2.2	0.15	-	-	2.2
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.30	3.0	-	
2 界壁遮音性能		1.0	0.30	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		1.0	0.20	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		1.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.60	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.40	3.0	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		4.1	0.25	-	-	4.1
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	
1 昼光率	昼光率3.9%	5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御	庇、カーテンの設置	4.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の積極的な採用	4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.3	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能	平均値0.092(1/15以上)	4.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.4
1 機能性		3.5	0.40	-	-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の円滑化誘導基準を満足	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高:3.0m	5.0	0.50	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
3 内装計画		1.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	・防汚性の高い仕上げ (内壁、床面、外壁) ・ホコリの溜まりにくい設計 ・風除室を設ける (1、2次扉距離3m確保) ・金属の防錆対策 ・段差のない設計	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.6	0.31	-	-	3.6
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-	
1 耐震性	建築基準法による規定の1.25倍	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	

	2	外壁仕上材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
	3	主要内装仕上材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	Bを使用	5.0	0.15	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	屋外受変電設備(20年)	5.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用、中水利用	5.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	浸水の危険なし(地上設置)	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.1	0.29	-	3.1
3.1 空間のゆとり			3.4	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高: 4.0m	5.0	0.60	3.0	-
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		1.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.9
1 建物の熱負荷抑制		PAL値=234.6	4.5	0.30	-	4.5
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		2.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光パネルの設置	4.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率空調の採用	4.5	0.30	-	4.5
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=25.2%	4.5	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.5
1 水資源保護			3.8	0.15	-	3.8
1.1 節水		自動水栓、節水型機器	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	雨水を中水として利用	4.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.63	-	3.8
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン、集成材、陶磁器質タイル	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法、軽鉄使用 OAフロア、スライディングウォール使用	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.22	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		高効率の設備機器を採用	3.6	0.33	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	3.4
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率: 73.9%	4.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制	自転車置場の確保、駐車スペースの確保、駐車場の導入口の形状の配慮	4.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.60	-	-
2	砂塵の抑制		2.0	0.20	-	-
3	日照阻害の抑制	日影規制のワンランク上の基準を満たす	4.0	0.20	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満足、広告物照明の取扱いなし	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

バリアフリーに配慮し、EVを設ける事で、車いすの生徒でも対応出来る学校施設とし、また各階に多目的トイレを設置することで、すべても生徒が利用しやすい学校施設となっています。

Q1 室内環境

- ・全面禁煙とし、非喫煙者にとって煙に曝されない環境となっている。
- ・十分な開口を設けることにより、良好な昼光を取り入れることができ、庇、カーテンの設置によりグレアを防止し、良好な室内環境を作り出す。
- ・F☆☆☆☆の積極的な採用により汚染物質の最小化に努める。

Q2 サービス性能

- ・バリアフリー新法の円滑化誘導基準の過半を満足し、利用者にとってより良い環境となっている。
- ・天井高を十分にとり、利用者の快適性の向上に努めた。
- ・更新必要間隔の長い給排水配管を採用し耐久性に努める。
- ・積極的な節水機器の採用で、節水を図る。
- ・耐震性能の割増により、地震時の安全性を高める。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・敷地の形状にあわせバランスよく植栽し、良好な景観をつくりだしている。

LR1 エネルギー

- ・太陽光パネル設置し、自然エネルギーの利用に努める。
- ・LED照明、高効率の機器を採用することで省エネルギーに努める。

LR2 資源・マテリアル

- ・躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっており、解体の際にリサイクルを促進する。
- ・雨水の利用、リサイクル材の積極的採用により資源の有効利用に努める。

LR3 敷地外環境

- ・広告物照明を扱っていない。
- ・自転車置場の確保、駐車スペースの確保しており、交通負荷の抑制に努める。
- ・高効率設備の採用し、CO2排出削減に努める。

その他

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 千原台高等学校校舎改築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		88.9
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				93.1	0.40	37.24
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.5	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.5	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				83.7	0.20	16.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				87.5	0.20	17.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				87	0.20	17.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.5	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数